

HOPES

ホープス セカンド

2nd

ニワトリや牛・豚などを飼いながら野菜や米をつくる循環型の農業を自分でやってみたく、今年のために村を訪れた小嶋さん。「どうせやるなら再びゼロから立ち上がろうとしている福島県の浜通りで」と考えて、さまざまな市町村を訪れていたそうです。その中で、「自分に合う」と初めて感じたのが飯館村だったと言います。



草野地区に整備されたお試し住宅。移住を検討する人が実際に住んでみるための住宅です。問い合わせは村移住相談室まで。(e ライフセンター-いいたて) ☎0244-42-0310

飯館村で自分の農業に挑戦したい

小嶋 直己さん(深谷)



埼玉県春日部市の出身。実家は日本最古の鶏卵生産農家の一つ。九州から北海道を渡り歩き、漁業・林業・農業などを経験。循環型農業で自立できる場所を求め村への移住を決意しました。

「移住相談室で話を聞いてもらい、農政係の方にも相談ができて、ここならと思いましたが」と小嶋さん。翌2月から村の「お試し住宅」に入居しました。昨年度に整備した住宅の「お試し移住」第1号でした。「住宅はリフォームされていてきれい。全く不自由なく暮らしました」。

移住した現在は、二本松市の企業の農業部で仕事をしながら、村内に適地を探しています。「若い頃から農業や漁業などいろいろやってきましたが、実家に仕事があり、いつでも帰れる場所があつて、恵まれていたんだと思います。今度は本当に自分でやってみたく。牛を飼いたい米をつくっていた村本来の農業にも魅力を感じています」。

「農地の草刈りをしたり、花を植えたり、手が足りない所を助けられるようになったらいいなとも思っています」。

＜編集後記＞

● ことも園に向かう車中で、2歳の息子が「あれは、なにー?」「これは、なにー?」と周りをキョロキョロ。最近では、村内の花木が特にお気に入り。「きれいだねー」と感じて欲しいのは親心。現実には「おいしいのー?」「たべれるのー?」と食欲旺盛な息子。正に、「花より団子」です。いつか、村のきれいな風景が心の風景になってくれることを願つて。(木幡)

● 実家を解体することになり片付け三昧だった10連休。懐かしいモノとたくさん再会し、親のありがたさをしみじみと感じた日々でした。そして、仕方のないこととは言え、実家がなくなるといふのは、本当に心もとなくて…。家を手放したりやむを得ず壊したりしてきた方々の気持ちを改めて想像し、胸が詰まったのでした。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。